

妊婦・子育て世帯への経済的支援 春先除雪補助の柔軟対応などを審議

1/23 臨時市議会

上越市は23日に臨時市議会を招集し、国による出産・子育て応援交付金事業として実施する経済的支援の経費などの補正予算等を提案しました。

補正予算の主なものは次の通りです。

- ◇ ふるさと納税による寄附金の見込み額にあわせ、上越市ふるさと上越応援基金積立金と返礼品代等を増額。
- ◇ マイナンバーカードの交付申請期限の延長に伴い、カードの取得等に対応する窓口体制を継続。
- ◇ 出産・子育て応援交付金を活用し、妊娠・出産・育児関連用品の購入や子育て支援サービスの利用等に対する経済的支援として、妊娠届出時に5万円、出生届出後に新生児1人につき5万円を支給。
- ◇ 春先の育苗用地や耕作道の消雪作業が早期化していることを踏まえ、緊急消雪促進対策事業費補助金の交付対象を判断する基準日を、現行の4月1日に加え、3月15日にも設定。
- ◇ エネルギー価格等高騰支援金の交付

申請の増加に伴い今後の所要額を増額。

- ◇ 道路整備、道路・橋梁修繕、消融雪施設、公園施設の更新など、来年度の計画事業の一部を、国の補正予算を活用して前倒しして実施。

他の議案としては、浄化センター機能高度化事業の一部を前倒しして実施するための下水道事業会計補正予算、国の「電気・ガス価格激変緩和対策事業」による補助金を活用して都市ガス料金を値引きすることに伴い、財源の組替えを行うガス事業会計の補正予算が提案されました。

日本共産党議員団は、市民生活を支援するための補正予算がほとんどであることを評価し、全議案に賛成しました。

なお、委員会審議と討論では、春先除雪で県が前向きになるよう働きかけることが重要であることと、利便性があまりなく多くの危険性があると指摘されているマイナンバーカードの交付窓口体制の継続は問題であることを指摘しました。

議員勉強会

「相談支援の体制づくり」学ぶ

相談支援センターやまびこセンター長 中屋万里子さんを迎えて

上越市議会が定期的に行っている「議員勉強会」の1月のテーマは、「障がい者支援における関係機関との連携の取り方」としての「相談支援の体制づくり」でした。

- 研修の内容としては、
- 1、困った時に、どこに相談するか
 - 2、どうやって解決していくのか
 - 3、相談体制の課題とは
 - 4、子どもの相談について

を中心に、順に話を聞きました。障がいを抱えている人の実際の相談については、まず「すこやかなくらし包括支援センター」や各区の総合事務所、そして各地の地域包括支援センターを窓口にするなど、そして、基本相談を経て計画相談に進んでいくことなど、相談支援の基本の「基」をあらためて学びました。

相談に際しては、大人と子どもの場合は異なること、困り具合に応じて支援の体制が組まれることなど、新たな学びがたくさんありました。話の中では、相談支援専門員にとって新たな課題が出てきたときの相談先がないこと、専門員が不足していること、行政との連携が難しいことなど、解決すべき課題があることも出されました。

小木直江津航路に関し勉強会

市議会文教経済常任委員会

市議会文教経済常任会は18日、佐渡汽船小木直江津航路に対する行政からの支援についての勉強会を行いました。

同航路には、佐渡汽船株式会社に昨年出資した「みちのりホールディングス」による経営立て直しの一つとして、カーフェリー「こがね丸」がこの春にも就航する予定であることが報道されており、内外の関心を集めています。

小木直江津航路は、佐渡市だけでなく当市にとっても重要な航路であるだけに、両市と県が今後どのような形でかかわっていくのか、市民からも注目されています。しかし、この日の勉強会では県、会社など関

4代目「こがね丸」として就航予定のカーフェリー「えひめ」→



係する方面との合意が確定されていない中、詳しいことは公表できないなどとして、明確なことは明らかにされませんでした。

仮に行政が重ねて支援するとすれば、その基になるのは市民の貴重な税金ですから、市民の納得を得る意味でも、一刻も早く明らかにして、公明正大に行うことが重要ではないでしょうか。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.780 2023年1月29日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

上越保健所管内新型コロナウイルス感染症

感染者発生状況 (1月22日現在)

1/16~1/22

感染者総数 832人(前週-249)

1日平均 118.9人(前週-35.5)